勞働者は太陽を射る熱を以て突進すべし

と死線を越えた賀川豐彦氏の熱辯

盛會を極めた向上會の宣傳演說會

東西走馳奔走して能辯を以て鳴る賀川豐彦氏も昨の勞働地へは初めての見參であるそれだけに人氣は齊の一層加はつて既報の如く工廠當局の目的の地に出現命令が一般職工に達せられたにも拘らず來工場に集を餘儀なくされて氏の舌鋒に接せんとする者が多數に見受けられ午後の一時二時を過ぐるも尚ほ詰め寄せて滿場はたすから次へと詰め寄せて滿場はさこそと首肯かれた斯くて內藤書記官の態度は如何に出でもない驚愕を示したのは當局の面目を失ふ事甚だしく直ちに氏の一言一句を捉へて「職工諸君の奮起を促す」と題する講演を開始した

前特士阿川君は工廠當局の本日の態度を感謝すると皮肉られたが自分はそんな延命な言葉はイヤだ僕は此の處置に就いて大いに憤慨せざるを得ない、勞働者は徒らに人に頼る居候氣分を排せなくてはならない、人の爲ちやないお互に自分自身の問題ちやないか吾々の問題は吾々勞働人をアテにしてはならない吾々は吾々自身で奮起すべきである

だ此れ下を働く幾万幾千の勞働者或は軍人の死を賭しての闘ひの犧牲はないか

と冒頭し勞働者に對する諒解の皮肉を例に依り氏の皮肉を悅ばす向

と題し氏の演說中職工諸君の希望に依る氏が向上會昊支部を設け當分の所を西原町の關戸氏宅に置く旨を貼紙せられた氏が壇を降ると共に司會者より「時は今吳工廠職工諸君の奮起を促す向上會聖守護」と云ふ題目を掲げた

氏は即夜廠長に他はそれより中通の大谷旅館に引取り九日午後一時半吳鐵列車で參觀同志の見送りを受けて廠長は十一時吳鎮守府に向ひ「君一人の勞働者は一致團結して大理想の世界に突進すべきである

と氏一流の唯心的哲學を説き勞働者は一致團結して大理想の世界に突進すべきである

最後の言葉を躍動して壇を降り午後四時四十分無事散會し續いて五十名の有志に依つて同氏の歡迎會を

ブラジルに催した尚氏は同夜七時から中通聖公會で傳道講演を行ひ八木氏一行は午後四時通譯運動で演說會を開き此れ又盛會を見たが八木氏一行は午後八時同じく盛大な見送りの下に廠を出た

賀川豐彦氏の登壇

を見た氏は五尺一寸にも充たない痩少の身軀に鍛ひられた音聲で聽衆を強め乍ら說き進めて

自分等は暴力に依らず最も合理的で最も穩健な普通選擧を要望す

と最後の言葉を躍動して壇を降り午後

賀川豐彦氏

貿よりも精神的に、人間として取扱つて貰ひ度いのだ

と氏は五尺一寸にも充たない痩少の身軀に鍛ひられた音聲で聽衆を強め乍ら說き進めて

自分等は暴力に依らず最も合理的で最も穩健な普通選擧を要望す

ユーモアを交りに笑から笑へと舌鋒を振り向けて行く

今は總て金に依つて定められて居る、尊い人間をして既に金錢に依つて價値付られて居る

吾々はそれがイヤだ、吾々は物貿よりも精神的に、人間として取扱つて貰ひ度いのだ

と氏一流の唯心的哲學を説き勞働者は一致團結して大理想の世界に突進すべきである

最後の言葉を躍動して壇を降り午後四時四十分無事散會し續いて五十名の有志に依つて同氏の歡迎會を

ブラジルに催した尚氏は同夜七時から中通聖公會で傳道講演を行ひ八木氏一行は午後四時通譯運動で演說會を開き此れ又盛會を見たが八木氏一行は午後八時同じく盛大な見送りの下に廠を出た

百圓懸賞 娘の行衛

生さぬ仲の母に姫まれ

廠の娘と大學生……二人の望みは實現されて同棲生活が營まれた、然し彼女の生さぬ仲なる母親は此の美しい夫婦の上に嫉ましい眼を注かずには居なかつた

廠は遂に彼女を家出せしめて終つた一人娘に逃げられた父親は血眼で心當りを捜索したが行方は不明であつた。「百圓」の懸賞が附せられて西原に捜索願ひが提出されたのは、彼女が家出して四日目九日の朝であつた。

何處に彷徨ふや廠の娘！……彼女は廠長西遊廠生駒輝一郎氏の一人娘靜子（二〇）さんである

賀川氏等の一行と工廠幹部と膝を交え

幾分か諒解を得たらし

勞働組合組織宣傳の目的を以て來吳した賀川豐彦氏を初め大阪向上會幹部の諸氏は九日午前十一時吳鎮守府の許可を得て工廠に到つたが森山工廠長は賀川氏を自室に招き暫時懇談した後賀川氏に向ひ「君一人の勞働者は一致團結して大理想の世界に突進すべきである」と述べた後今回諸君が當地に來り演說會を開催する當日は日曜日なるにも拘らず出席せしめたのは決して演說會に行かせないためだ

と火の如き舌鋒を振るつて滿場を絶らせ降壇するや續いて向上會副會長の

廣永賢次氏

がその頑丈そうな大きな体軀を運ばして吾々は昨日迄大阪砲兵工廠の工場に働いて居た者だそして自分は十五の時から鑪とハムマーで作り上げて來た人間だ

と鳴破して先づ聲を吐く

故意

にしたのでなく工廠の事務工程として一ケ月四回以上定めて居るが年末年始の休暇に加へ五日間の新年宴會當日も休業したので每月の休暇に最も近き日曜日に出勤する一般當局の態度を語り

關戸雅城氏

と壇を降る氏は從來迄曾て來つた講演運動に對する一般當局の態度を語り

考へてなくてはは最後の解決を得る事は出來ない、此の點に於て如何なる博士と雖も信賴する足りない

と知識階級への挑戰で意氣を擡げ當地に依て行はれて居る講演運動は寧ろ講習會に於て野蠻より提出せしめべき運動に加はらんことを

と嶽來迄に來た人の

關戸雅城氏

と壇を降る氏は從來迄曾て來つた講演運動に對する一般當局の態度を語り

と鳴破して先づ聲を吐く

廣永賢次氏

がその頑丈そうな大きな体軀を運ばして吾々は昨日迄大阪砲兵工廠の工場に働いて居た者だそして自分は十五の時から鑪とハムマーで作り上げて來た人間だ

と鳴破して先づ聲を吐く

午食

を變じ位堂總務部長をして接待役に當らしめたが食事の上で位堂大佐の平素の持論たる職工待遇上に於ける諸種の抱負を表の上より說明して興へたので一行は吳海軍工廠から研究し居ることを

は吳海軍工廠が職工の身上に斯く迄嚴服した樣であつた、又失業者當時の給料二ケ年分を支給すべく運動をなさんと言明して居る

嗚呼……亂

海軍造兵廠職工懷柔